

2020 年 1 月 31 日

『RUGBY “MATSURI” PROJECT 2019 レガシーイベント』
～ラグビーW杯の感動を、再びノエスタで！～
実施報告書

【概要】

主 催 : 特定非営利活動法人スポーツ・コミュニティ・アンド・インテリジェンス機構

後 援 : 神戸市 神戸市教育委員会 神戸市スポーツ協会 関西ラグビーフットボール協会 兵庫県ラグビーフットボール協会

開催日時 : 2020 年 1 月 26 日 (日) 10 時～17 時

場 所 : ノエビアスタジアム神戸

趣 旨 : 日本代表の活躍もあり、日本中を席卷した 2019 ラグビーワールドカップ日本大会。その盛り上がりのほどは言わずもがな。このラグビー人気を継続すべく、ワールドカップ神戸大会の会場にもなったノエビアスタジアム神戸で、大会後初の SCIX イベントを開催。ワールドカップ日本大会を機に、ラグビーに興味をもった子どもたちや、にわかファン、そして長年のラグビーファン、いろんな方々に楽しんでもらえる企画を 3 部構成で展開。トップリーグ第 3 節・神戸製鋼コベルコスティーラーズ vs サントリーサンゴリアスの試合開催日に実施することで、会場に足を運んでもらうのはもとより、プラスアルファの楽しみ方を提案、提供します。

■第 1 部 / その 1

『SCIX スペースボールカップ

～ワールドカップの感動をノエスタで体験しよう～』

司 会 : SCIX ラグビークラブ キャプテン・甲斐隆盛氏

対 象 : 小学生 4～6 年生

参 加 者 : 小学生 4～6 年生 51 名

場 所 : ノエビアスタジアム神戸芝生広場

プログラム : 10:00～12:00

指 導 者： SCIXラグビークラブ選手

趣 旨： スペースボールはラグビー初心者でもできる、ラグビーの基本がいっぱい詰まった SCIX オリジナルのボールゲーム。神戸市内の小学校 4 年生～6 年生を対象にスペースボールを体験してもらい、将来のラグビー選手、日本代表を目指すきっかけ作りをしてもらいます。また、2019 ラグビーワールドカップに出場した強豪国・20 チームの国旗付きビブスを着用しながら対戦してもらい、ミニワールドカップを開催。代表気分を味わい、楽しくプレーしてもらいます。

内 容：

2019 ラグビーワールドカップ日本大会を観て、世界のトップ選手のプレーに感動した子どもたちは多いはず。そこで SCIX では、子どもたちにラグビー体験をしてもらおう！と、神戸市内の子どもたちを対象にレガシーイベントを開催しました。午前中開催の第 1 部は、学年とラグビー経験を鑑みて「スペースボール」と「ラグビー体験会」の二段構え。



第 1 部・企画その 1 は、神戸市内の小学校 4 年生～6 年生を対象にした「SCIX スペースボールカップ」。トップリーグ第 3 節、神戸製鋼コベルコスティーラーズホームゲームが開催されるノエビアスタジアム併設の芝生広場にて実施しました。

この時期には珍しく、関西では空模様の悪い日が続いており、開催日当日

も雨予報で開催が危ぶまれましたが、幸い当日は雨も上がり予定通り開催する運びとなりました。

この日、会場となるノエビアスタジアムに到着し、「無事イベントが開催できそうでよかった～」という安堵の気持ちと同時に、ラグビーワールドカップ日本大会による効果がどれほどのものか SCIX 関係者一同が実感。これまでも SCIX 主催のスペースボールカップを、神戸製鋼コベルコスティーラーズホームゲーム開催日に合わせて実施してきましたが、イベントの準備をする SCIX 関係者が会場に到着した時点で、トップリーグ観戦客の行列ができているという未だかつてない光景に驚きを隠せませんでした。しかも、どこが最後尾かわからないほどの長蛇の列。「凄いね～」「今までこんなこと無かったですよね～」と話す声があちこちで聞かれました。



そんなトップリーグの開場を待つ観客たちの視線を浴びながら、SCIX レガシーイベント第 1 部の参加者受付がスタート。朝早くから集まったイベント参加者らが続々とやってきます。ラグビースクールに所属し、団体

申し込みをしている子どもたちも居れば、個人参加の子どもたちも。

ワールドカップ日本大会の神戸会場として、世界のトップ選手たちがプレーした会場に併設したグラウンドで、自分たちもプレーができる！とワクワクしている様子が伝わってきます。開場待ちする観客の行列が、さらに気分を高揚させているようにも感じます。今回も、第 1 部参加の子どもたちには、SCIX オリジナル T シャツをプレゼント。もらったばかりの T シャツに早々と着替え、待ちきれない様子の子も。ボールに触りたくて仕方ない様子で、ボールで遊び始めたり、練習する姿も見られました。

定刻となり、司会の号令のもと全員集合。通常、「SCIX スペースボールカップ」の司会・進行は SCIX 事務局・武藤規夫氏が担当していますが、今回はトップリーグ第 3 節の前座イベントとして開催される「レジェンドマッチ」に神戸製鋼 OB として参加のため、司会・進行役は SCIX ラグビークラブ キャプテンの甲斐隆盛氏が務めることとなりました。

はじめに、SCIX 代表理事・氏家啓喜氏より開幕の挨拶として、無事イベントが開催される喜び、



そしてラグビーワールドカップ日本大会の感動、ワールドカップさながらの白熱のプレーを楽しんでほしいといったことが述べられました。続いて、各班の班長となる SCIX ラグビークラブメンバーを紹介。スペースボールのルールを把握してもらうために、SCIX ラグビークラブメンバーがデモンス

トレーションを行い、ルールの説明がされました。

ひと通り説明を聞いたあとは、班に分かれ、班長を中心に準備運動やパス練習、そしてルール把握のための練習試合を行います。51 名の参加者を 1 チーム 6～7 名に分けた全 8 チーム。その 8 チームを A、B の 2 ブロックに分け、各ブロックで総当たりの予選リーグを行い、各ブロック上位 2 チームによる決勝トーナメントで優勝チームを決定します。

自分の名前を、前に貼り出された掲示板で確認し、それぞれの班に分かれていく子どもたち。まずは、班ごとに、2019 ラグビーワールドカップ出場国・8 チームのフラッグが描かれたビブスを着用します。

チーム分けは下記。

<Aブロック>

- 1班 アイルランド
- 2班 オーストラリア
- 3班 ニュージーランド
- 4班 フランス

<Bブロック>

- 5班 イングランド
- 6班 日本
- 7班 アルゼンチン
- 8班 スコットランド



「おー！日本や！」「ニュージーランドやん！いいな～」と子どもたち。まるで、ワールドカップに出場する代表選手になったかのような気分なのかもしれません。

班長の指示に従い、円になって屈伸などの準備運動、そして、ボールを使つてのパス練習などが行われ、身体が温まってきたところで、4つの

コートに分かれ練習試合スタート。練習試合とはいえ、試合形式になった途端、俄然張り切る子どもたち。15分程度練習試合をしたところで、再度、甲斐リーダーの合図で全員集合。大会方式と、練習試合を観ての注意点が説明されました。ターンオーバーし、リスタートする際に、ボールを持っている選手と、相手チームの選手はきちんと距離をとろう！という甲斐リーダーのアドバイスを真剣に聞く子どもたち。



再び4つのコートの散らばり、いよいよ予選リーグ第1試合の開始です！

第1試合は、アイルランドvsオーストラリア、ニュージーランドvsフランス、イングランドvs日本、アルゼンチンvsスコットランドの4試合。取って取られての接戦カード、はたまたワンサイドの展

開になるカード。コートによって様々な攻防が繰り広げられます。6分間の試合を終えるごとに水分補給のインターバルを挟み、第2試合、第3試合と進行。グラウンドのあちこちで、試合を見守るSCIXラグビークラブメンバーたちの声が飛び交います。「おー！スコットランドいい動き！」「今のいいよ！JAPAN」「うまい！うまい！うまい！」「いいよ！ナイス！」。その声に、さらにギアが上がる子どもたち。試合間には、「放ったら終わりちゃうからなー」と、SCIXラグビークラブのメンバーが子どもたちにレクチャーする場面も見られました。

各チーム、予選リーグ3試合を終えての結果は下記。

<予選リーグ>

Aブロック

	1	2	3	4	勝点	得失差	順位
1		○ 3-2	× 2-6	○ 4-2	6		2
2	× 2-3		× 1-12	× 1-7	0		4
3	○ 6-2	○ 12-1		○ 5-0	9		1
4	× 2-4	○ 7-1	× 0-5		3		3

Bブロック

	5	6	7	8	勝点	得失差	順位
5		○ 3-0	○ 4-3	○ 6-1	9		1
6	× 0-3		× 1-7	× 2-3	0		4
7	× 3-4	× 7-10		○ 7-3	6		2
8	× 1-6	○ 7-2	× 3-7		3		3

予選リーグ終了直後、予選敗退チームとニュージーランドチームの選手同士がこんなやりとりをしていました。「決勝（トーナメント）出るん?」「うん！全部勝った」。ニュージーランドチームのこの短い言葉に、3 試合完勝の自負と決勝トーナメントへの気合いを感じました。それもそのはず。A ブロック 1 位通過のニュージーランドにおいては、3 試合全てで僅か 3 失点。さらに、全試合 5 得点以上を上げるという強さ。まさに本家オールブラックスのような無敵ぶり。2019 ワールドカップ日本大会の前評判と同じく、優勝候補ナンバーワンといったところでしょう。



一旦集合し、予選リーグの集計。決勝トーナメント・準決勝は、A ブロック 1 位のニュージーランドと B ブロック 2 位のアルゼンチン。そして B ブロック 1 位のイングランドと A ブロック 2 位のアイルランドが激突することとなりました。

レフェリーの合図のもと、整列し準決勝開始！決勝トーナメントともなると、実力が拮抗し、一進一退の攻防が続きます。コートサイドで応援する予選敗退チームの子どもたち、そして保護者、SCIX ラグビークラブのメンバーからも歓声が上がります。

白熱の試合結果は、優勝候補ナンバーワンのニュージーランドが、アルゼンチンに 2-1 で辛勝。そして、B ブロック 1 位通過のイングランドがアイルランド相手に 2-0 の完封勝利をおさめ、決勝進出を決めました。「ここまで来たら何が何でも優勝するぞ！」と、両チームの選手はもとより、班長を務める SCIX ラグビークラブメンバーも、優勝への意気込みがみなぎります。

図らずも、2019 ラグビーワールドカップの準決勝の好カードと同じ対戦となった今回の「SCIX スペースボールカップ」決勝戦。ご存知の通り、2019 ラグビーワールドカップでは、優勝候補筆頭

とされたニュージーランドと、前日本代表監督のエディ・ジョーンズ氏率いるイングランドが対戦し、見事イングランドが 19-7 でニュージーランドをくだし、南アフリカとの決勝に進んだわけですが、「SCIX スペースボールカップ」で勝つのはどちらのチームか？注目の試合が始まります。

イングランドがゴール前にロングパスを放りトライを決めれば、ニュージーランドが逆襲。パスをインターセプトし、華麗なフットワークでイングランドチームを交わしゴール前に持ち込みます。両チームそれぞれ、俊足の中心選手を軸に試合を展開。5 試合目でスタミナが落ちつつある中、チャンピオンの称号を得るために、チーム全員全力で走り奮闘します。「パス！パス！」「●●、こっち！」



「●●、走れ！」とチームメイトの名前を呼び、活気ある声が溢れる試合に、周囲もどんどん盛り上がります。毎回子どもたちの真剣勝負が見られる「SCIX スペースボールカップ」ですが、史上最高ともいえるヒートアップした決勝戦となりました。どちらが勝ってもおかしくない試合展開でしたが、接戦の末、見事イングランドが勝利。「ええ試

合やった！」「ようやった！」とイングランド、ニュージーランドそれぞれの班長たちが、肩を叩きながら選手たちを称えるシーンが印象的でした。

奇しくも、2019 ラグビーワールドカップ準決勝と同じ結果となったこのカード。残念ながら 2019 ラグビーワールドカップでは、準決勝でニュージーランドを倒しつつも、決勝で南アフリカに敗れ、準優勝に甘んじたイングランドですが、代わりに子どもたちが、その雪辱を果たすかのように優勝。次回ワールドカップを占うかのような、なかなか興味深い結末となりました。



当初の予定では、このあと表彰式を行い閉幕という段取りでしたが、SCIX ラグビークラブのメンバーたちから「優勝したイングランドチームと対戦したい！」とのリクエストがあり、急遽もう 1 試合エキシビジョンマッチとして行われることに。「観ているだけじゃつまらない！」「自分たちもやりたい！」「お兄ちゃんたちの力を見せつけてやる～！」ということでしょう（笑）。

試合開始の笛が吹かれると、いきなりイングランドチームのゴール前へのロングパスが通り、見事先制ト

ライ。「これはヤバイ！」と SCIX ラグビークラブの目の色が変わります。しかし、負けじと放ったロングパスをキャッチミス。リズムよくパスをつなぐスタイルに切り替え、さすがの動きを見せる SCIX ラグビークラブ。それに必死にくらいつくイングランドチーム。体格差がかなりあるので、これはさすがに一方的な試合になるのでは？...と思われましたが、そこはタックル禁止&両手タッチでターンオーバーというスペースボールならではのルール故、見応えのある試合が展開されました。試合終了を告げる笛が鳴りノーサイド。優勝したイングランドチームはじめ、参加した子どもたち、



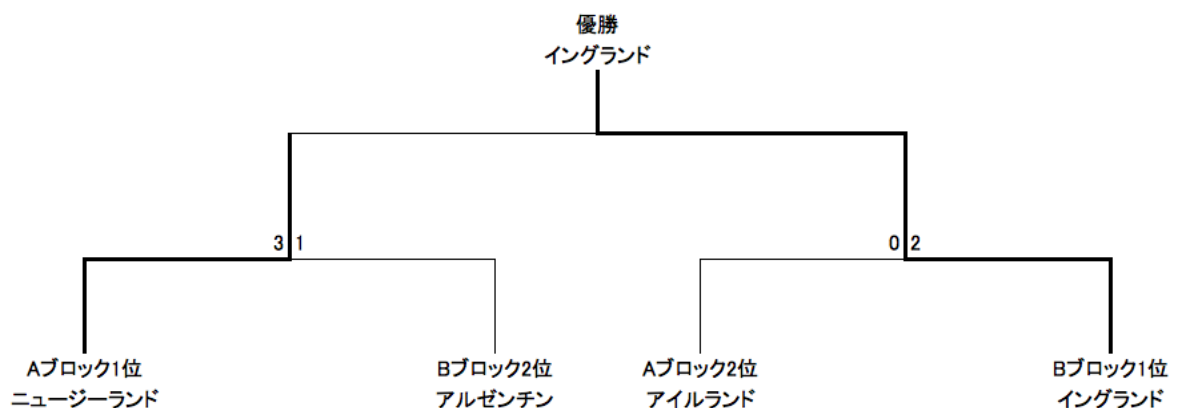
SCIX ラグビークラブメンバー全員ケガも無く、笑顔で全試合終えることができました。

表彰式では、優勝のイングランドチームと準優勝のニュージーランドチームにプレゼントの贈呈。神戸製鋼コベルコスティーラーズのミニチュアボールと、ラグビーワールドカップのバッジが贈られました。「優勝チームを代表して一言」と司会の甲斐氏の無茶ぶりに戸惑いつつも、イングランドチームの先頭に座っていた選手が「楽しかった。ラグビーもっと上手になりたい」とコメント。大きな拍手が送られました。

最後に、SCIX 代表理事・氏家氏による総評。「どの試合もロングパスが目立ったが、もっと短いパスをつなぐのがラグビーの醍醐味。細かくパスをつなげるようになるともっとラグビーが楽しくなる。ラグビーをもっと楽しもう！」とエールが送られました。恒例の記念撮影は、みんな、やりきった感に満ちたいい笑顔でした。

中止が危ぶまれた今回の「SCIX スペースボールカップ」でしたが、今回もたくさんのご参加ありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<決勝トーナメント>





■第1部 / その2

『SCIX ラグビー体験会』

司 会 : 兵庫県ラグビーフットボール協会普及育成コーチ

対 象 : 小学生1～3年生 (ラグビー未経験者)

参 加 者 : 小学生1～3年生 (ラグビー未経験者) 約30名

場 所 : ノエビアスタジアム神戸芝生広場

プログラム : 10:00～11:00

指 導 者 : 兵庫県ラグビーフットボール協会普及育成コーチ陣、兵庫高校ラグビー部員

趣 旨 : 「ワールドカップでラグビーに興味を持ったけど、一度もラグビーボールに触ったことがない…」という子どもたち向けの「ラグビー体験教室」を開催。ラグビーボールを使った遊びを通し、ラグビーの楽しさを体感してもらいます。

内 容 :

第1部・企画その2は、ラグビー未経験の小学校1年生～3年生を対象にした「SCIX ラグビー体験会」。憧れのラグビーボールを手に、芝生のグラウンドを思い切り走り回ってもらおう！という企画です。第1部・企画その1の「SCIX スペースボールカップ」と同時進行で、ノエビアスタジアム神戸芝生広場にて開催されました。

こちらは「SCIX スペースボールカップ」参加者とは違い、ラグビー未経験者ということで、「どんなことをやるんだろう？」と期待と不安でドキドキわくわくといった表情で受付にやってくる子どもたち。「SCIX ラグビー体験会」の受付では、参加者全員にプレゼントする SCIX オリジナル T シャツに加え、体験会で使用するタグラグビーのタグを配布。予め4つにチーム分けしておいた参加者リストを元に、赤、緑、青、黄と色分けされたタグが支給されます。

定刻通り、「SCIX スペースボールカップ」開幕と同時に、「SCIX ラグビー体験会」もスタート！「SCIX ラグビー体験会」の司会進行は、兵庫県ラグビーフットボール協会普及育成コーチを務めるベテラン指導者・片山氏。コーチの物腰柔らかな出で立ちと口調に、子どもたちも緊張することなくリラックスしている様子。

はじめに、指導陣の紹介。司会進行の片山コーチはじめ、兵庫県ラグビーフットボール協会普及育成コーチ陣と、兵庫高校ラグビー部員のお兄さんたちが指導にあたってくれるわけですが、ここで、兵庫高校ラグビー部員がひとりずつ自己紹介を



することに。「ヒカルくんです。一回呼んでみましょう！」「ヒカルくん！」などという可愛い掛け合いも見られ、実に和やかで微笑ましい開幕となりました。

体験会参加者はラグビー未経験ということで、まずは「ラグビーの華」ともいえる「トライ」の練習。子どもたちがノリノリで楽しくできる上に、ランでウォーミングアップにもなるというわけです。

憧れのラグビーボールを持ちながら、芝生を駆け抜ける、まさに 2019 ラグビーワールドカップで見た選手と同じ。一気に子どもたちのテンションが上がります。

ダッシュを繰り返し、身体が温まってきたら、次はラグビーボールを抱えながら「だるまさんが転んだ」。兵庫高校ラグビー部員のお兄さんたちが鬼役となり、子どもたちがジリジリと鬼に近づいていき、最終的に鬼の横にトライするというもの。昭和世代であれば誰もが幼少期にしたであろう「だるまさんが転んだ」という遊び。その遊びを通して、ピタッと止まるための体幹づくり、そ



して、動きながら周りを見る関節視野、動くのか止まるのかという判断力、決断力といったラグビーに必要な要素を身につけさせようという意図が感じられました。近年、子どもの外遊びが減り、昔は当たり前のようにできていた動きができなくなっていると聞きます。この「だるまさんが転んだ」を見て改めて、昔ながらの遊びの大切さを感じた保護者も多いのではないのでしょうか。

体験会参加者は小学校低学年ということで、1つのメニューを長くすると飽きてしまう傾向があるので、そこはベテランコーチ、考えられたメニューもさることながら、リズムよくメニューが展開していきます。

「だるまさんが転んだ」のあとは、ラグビーボールを持つての鬼ごっこ。そして、腰につけたタグを取り合う「タグ鬼ごっこ」。昔ながらの遊び「鬼ごっこ」と「タグラグビー」を融合させたもので、相手の腰のタグを奪い合い、取ったタグが多い方が勝ちというもの。兵庫高校ラグビー部のお兄さんたちと、子どもたちの混成チームで本気のバトルが繰り広げられます。大人顔負けの体格をした高校生たちの周りを、小さな子どもたちがチョロチョロと駆け回り、タグを奪う姿は、まさに



に屈強な大男たちを翻弄したジェイミー JAPAN の勇姿を見ているようでした。「タグ鬼ごっこ」も「スペースボール同様」、体格差があっても一緒に楽しめるのが大きな魅力。「あー！取られた」「わ、あと1本しかない！」「俺、味方や！同じチームやって！」などという高校生の声も聞かれ、大きな盛り上がりを見せました。

続いて、二人一組になり、片方の手を繋いだ状態で相手のタグを奪い合います。子どもたちは言われるがまま、遊びの一環として楽しそうにやっていますが、このメニューもスポーツに必要な要素が詰まっているのがうかがえます。繋いだ手の力の入れ具合や駆け引き、体幹の強さ、ボディーバランス、反射神経など、ラグビーのみならずスポーツ全般に必要なものばかり。それに気付かず、ただただ楽しく遊び、成長していくと自然と身に付いているということなのでしょう。

さて、次はいよいよタグラグビーの時間です。コーチの説明を元に、まずは兵庫高校ラグビー部のお兄さんが見本を見せます。ボールを持っている選手が、相手チームにタグを取られたら、ボールをパスしないといけないというのが、タグラグビーの基本ルール。説明もほどほどに、まずやってみよう！と、早



速色ごとに分かれ、対戦します。「タグ鬼ごっこ」などこれまでのメニューの成果もあり、初めてとは思えないほどスムーズな展開で、子どもたちもタグラグビーを楽しんでいる様子。仲間に必死でパスをつなぐ場面や、楕円球を持ちながらランで逃げ切り見事トライする場面もあり、ラグビーの楽しさを垣間見ることができたのではないのでしょうか。

タグラグビーを楽しんだあとは、兵庫高校ラグビー部メンバーが、スクリューパスを披露。一人



飛ばし、二人飛ばし...と、どんどん距離を伸ばしていきます。子どもたちからは「おお～～！」と大きな歓声。「自分もあんな風にカッコよくパスしてみたい！」と思ったことでしょう。さらに、ラグビーの特徴的なシーン、ラインアウトをデモンストレート。「やってみたい人～！」の声に、一斉に手が上がります。全員やってみたい！ということで、順にラインア

ウトを体験することに。リフターによって担ぎ上げられるスタイルのラインアウトを体験できる機会はそうそう無いので、何としてでも我が子をカメラに収めようと、保護者の皆さんも必死です。

最後は全員集合し、コーチと兵庫高校ラグビー部から感想が述べられました。「楽しかった人～」というお兄さんの質問に、元気に手を挙げる子どもたち。「今、手を挙げた人たちはぜひ兵庫高校ラグビー部に将来入ってください(笑)」というユーモアを交えたやりとりもあり、「SCIX ラグビー体験会」も笑顔で閉幕しました。参加してくれた子どもたちが、ラグビーの楽しさを知るきっかけとなったのではないかと思いますと同時に、保護者や指導に関わる方々にも、「遊び」を通してスポーツの基本や、ラグビーの楽しさを学ぶ大切さを感じていただけたのではないかと思います。この度は、たくさんのご参加ありがとうございました。今後もこのようなレガシーイベントを開催して参りますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



■第2部

『2019-2020 トップリーグ公式戦 ルール解説付き観戦ツアー
～ルールを覚えればW杯の感動が、もっと深くなる！～』

司 会 : SCIX 理事 美齊津二郎氏

出 演 者 : 平尾剛氏 (ラグビー元日本代表・神戸親和女子大学教授)
白井健三氏 (日本ラグビー協会レフリーコーチ)

参 加 者 : 約 50 名

場 所 : ノエビアスタジアム神戸 スタジアム研修室① (受付&説明会)
ノエビアスタジアム神戸 バックスタンド (解説付きゲーム観戦)

プログラム : 12:00～12:30 (受付&説明会)
13:00～14:30 (解説付きゲーム観戦)

趣 旨 : ラグビーワールドカップ 2019 日本大会をスタンドや TV で観戦し、「にわかファン」になったけれど、やっぱりまだルールがよく分からない…。そうしたラグビー観戦ビギナー向けに、ラグビー元日本代表とベテランレフリーが、分かりやすくルール解説しながら、一緒にトップリーグの公式戦を観戦します。

内 容 :

SCIX レガシーイベント、午後からの第2部は「2019-2020 トップリーグ公式戦 ルール解説付き観戦ツアー」を実施。この日、ノエビアスタジアム神戸で行われるトップリーグ第3節・神戸製鋼コベルコスティーラーズホームゲームの自由席チケットをご持参の方を対象に開催しました。以前、SCIX で開催した「ルール解説付き観戦ツアー」も好評をいただいておりますが、今回は初の試みとして「近距離無線システム」を採用。解説者と参加者にトランシーバーを利用してもらい、解説者からのみ話することができる片方向通話システムで、周囲の観戦者に迷惑のかからないように、ゲーム解説を楽しんでいただきます。



まずは、そのトランシーバーの配布と説明のために、参加者の皆様には、ノエビアスタジアム神戸内の研修室に集まっていただき、第2部スタート。SCIX 理事・美齊津二郎氏より開幕の挨拶と、解説者おふたりが紹介されました。

今回、解説を務めてくださるのは、SCIX のセミナーや講座でおなじみ、ラグビー元日本代表・平尾剛氏と、毎年、SCIX カップのレフェリーを担当していただいております、日本ラグビー協会レフリーコーチ・白井健三氏。解説陣からどんなお話が聞けるのか？どんな試合になるのか？心がはやるのを抑えつつ会場入りを待つ参加者。ひとり1台ずつ受信用のトランシーバーが配られ、操作方法が説明されます。操作方法がわから

ない様子の参加者に、近くに居た平尾氏が丁寧にサポート。基本的に、今回の「ルール解説付きツアー」は解説陣発信の一方通行スタイルではありますが、ハーフタイムなどの合間の質問などは自由なので、この平尾氏の親しみやすい人柄が知れたことで、参加者もコミュニケーションが取りやすくなったのではないのでしょうか。



トランシーバーのチェックを済ませ、いよいよスタジアムへ。早朝から行列ができていたスタジアム周辺ですが、キックオフまで 30 分程度という時間帯でも未だ大勢の人だかり。人波を掻き分けスタジアムへ入り、ピッチが見えるゲートをくぐります。すると、そこには未だかつて見たことのない人・人・人で埋め尽くされたスタジアムが広がっていました。この光景に、平尾氏も「こんなにお客さんが入ってるノエスタは見たことがない。僕の現役時代はメイン（スタンド）が埋まる程度。上の方まで本当にいっぱいですね」と驚きを隠せない様子。実際、この日試合途中に発表された入場者数は 2 万 6312 人。2019 ワールドカップ開催時とほぼ同じ。依然ラグビー人気が続いている、いや、増しているともとれる数値を記録しました。



ゴールライン付近のバックスタンド一角にスペースを確保し、解説陣おふたりを囲むように参加者らが着席。超満員のスタジアムの興奮を感じながら、試合前のアップをする両チームの選手たち。この状況に選手たちも興奮したことでしょう。そんな熱気ムンムンのスタジアムで、まずはトランシーバーのチェックをする

解説陣と参加者。「聞こえますか〜！聞こえる手を挙げてください〜」と不備がないかトランシーバーを使って声をかけます。もはや準備万端、キックオフを待つばかりの参加者。持ち込んだフードやドリンクを手に、もぐもぐタイムが始まります。今回トランシーバーを採用したことにより、自由に食事をしながら観戦できるというのも、参加者にとっては大きなメリットではない

かと感じました。隣に居る解説者に、もぐもぐ何かを食べながら直接質問をして、話を聞くというのは、日本人としてはマナー的に失礼で、さすがに気がひけるでしょうから。参加者はイヤホンをつけ、同じ空間で観戦している解説陣の解説を聞きながら観戦できるので、自分の好きなタイミングで、誰に気兼ねすることなく飲み食いできるというわけです。時には、参加者から解説陣にチョコレートのおやつをお裾分け、などという関西ならではの交流も見られました（笑）。

一旦選手が引き上げ、試合開始の時間が迫ります。出場選手の名前が読み上げられ、選手入場。日本代表メンバー、そして神戸製鋼コベルコスティーラーズ 10 ダン・カーター選手の名前が呼ばれると、一際大きな歓声が上がります。



昨シーズンのトップリーグ王者を決めるカードと同じ、神戸製鋼コベルコスティーラーズ vs サントリーサンゴリアスの戦い。昨シーズンの対戦は、55-5 という圧勝で 15 年ぶりのトップリーグ優勝を決めたスティーラーズですが、今回はどうなるか？ 今シーズン初のノエビアスタジアムホームゲームが、この好カードということで注目度も高い一戦です。

神戸製鋼コベルコスティーラーズ 10 ダン・カーター選手のキックオフで試合開始。開始早々、サンゴリアスが神戸陣 30 m 付近のラインアウトよりバックスに展開し、サンゴリアス 10 田村選手がディフェンダーの間を付きラインブレイク。そのまま走り切り先制トライを決めます。ゴールライン目の前に陣取っていたこともあり、いきなりの相手チームのトライにがっくりとうなだれる参加者の姿も。しかし、すかさずここで「取られはしましたが、神戸の動きが悪いわけではない。まだまだこれから」と平尾氏がコメント。「短いパスをリズムよくつないでいくのがスティーラーズのラグビースタイル。注目して観てみてください」と続けます。

その後、サンゴリアスの選手がハイタックルのファウル。ここで白井氏より「今のはハイタックルというファウルで、肩より上に…」とルール解説が入ります。会場内にもファウルがあった場合などはアナウンスがあり、ビジョンにも説明が出ますが、よりわかりやすく説明してくれるので「にわかファン」にはやはり嬉しいサービスではないかと思います。



その後も、ファーストスクラムの見どころ、スクラム時のレフェリーの采配などのほか、オフサイドやモールアンプレイアブルといったファウルの説明など、試合展開に合わせポイントポイントで解説コメントが入ります。

試合はというと、ダン・カーター選手のペナルティーゴールで 3-7 と

し、その後、山中選手の個人技からビッグゲイン、最後も山中選手自らグラウンド中央にトライ。ダン・カーター選手のキック成功で 10-10 に追いつきますが、その 11 分後、サンゴリアスがペナルティーゴールを決め、10-13 と逆転されます。しかし、前半 34 分、トライ&キック成功で、再びスティーラーズが逆転。20-16 スティーラーズリードで前半を折り返します。一進一退のまに見応え満点の試合展開に、解説陣も「こんなに面白い試合が生で観られて良かったですね〜！」とコメント。後半が楽しみです。

ハーフタイムを挟み、後半がスタート。後半 4 分、これぞトップチーム、トップ選手の為せる技！というスーパープレーの連続でスティーラーズがトライ。25-16 と 1 トライ 1 ゴールでは追



いつけない点差に持ち込みます。「今のは、ダン・カーター本気出しましたね（笑）」「(バックマン選手がゴールライン手前数メートルの地点で裏にキックパスをしたプレーについて) あんなところでキックパスするなんて誰も思わないですよ。今のは凄いな」「皆さん、凄いプレーを観ましたね〜」と平尾氏。元日本代表であり、名だたるトッププレーヤーのスーパープレーを観てきた平尾氏をも唸るそのコメントに、参加者はそのプレーの凄さ、そしてその瞬間を目撃できた喜びを痛感したことでしょう。

中島選手、ラファエレ選手、山中選手、アタアタ選手(以上スティーラーズ)、流選手、中村選手、松島選手、北出選手、ツイ選手(以上サンゴリアス)と、2019 ワールドカップ日本代表メンバーを多数要する両チーム。それだけでも大いに価値のある「にわかファン」大喜びのカードですが、「うーん、今のジャッジは難しいんですよえ...」といった白井氏の、レフェリーならではの本音や、「残り 10 分は、後 10 分！がんばろ！と思える。後半残り 20 分

が一番キツイ」「梶村選手（サンゴリアス）は次期日本代表の有力候補。注目です」などと平尾氏の元プレーヤーならではの視点など、存分に楽しんでもらえたのではないかと思います。

前半序盤のサンゴリアスの幻のトライや、後半残り 6 分にはキックオフサイドという珍しいファウルも見られたこの日の試合、終盤、サンゴリアスの意地のトライはありましたが、結果はス



ティーラズが 35-29 で勝利。スティーラズホーム開幕戦は、参加者はじめ、解説陣、そして SCIX 関係者もニコリ！な結果となりました。

試合終了後は、トランシーバー回収のため説明会を行った研修室に戻り、閉幕、解散と成りました。

初の試みとなったトランシーバーを使っの「ルール解説付き観戦ツアー」ですが、「にわかファン」にも往年のラグビーファンにもご満足いただけたのではないのでしょうか。今後も改善、工夫しながら開催していければと思います。ご参加くださった皆さまありがとうございました。

■第 3 部

『アフターマッチトークショー

～感動の 44 日間を語り合おう！～』

司 会：村上晃一氏（ラグビージャーナリスト）

ゲ ス ト：長村博氏（神戸市 市民参画推進局 スポーツ振興部 担当課長）

平尾剛氏（ラグビー元日本代表・神戸親和女子大学教授）

白井健三氏（日本ラグビー協会レフリーコーチ）

参 加 者：約 60 名

場 所：ノエビアスタジアム神戸研修室①

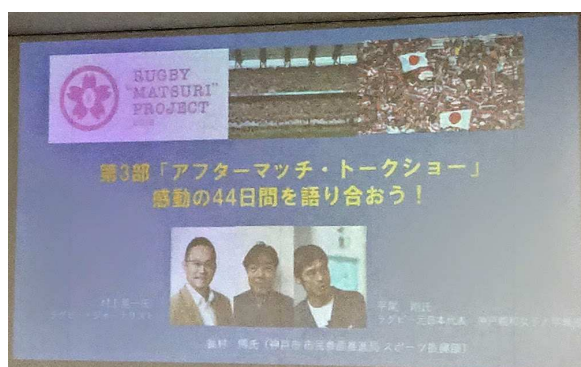
プログラム：15:30～17:00

趣 旨：神戸製鋼コベルコスティーラズのホーム開幕戦を観戦した後は、ラグビージャーナリストの村上晃一氏を司会に迎え、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会の「感動の 44 日間」を振り返りながら、ワールドカップ神戸開催のレガシーをどう次代に繋いでいくか、ゲストや参加者と共に語り合います。



内 容：

「SCIX レガシーイベント」もいよいよ大詰め。第3部はノエビアスタジアム神戸内研修室にて「アフターマッチトークショー」。スティーラーズホームゲーム開幕戦勝利の興奮冷めやらぬなか、第3部参加者が研修室へ続々と到着します。スティーラーズ勝利ということもあり、皆さん晴れ晴れとした表情でスタンバイ。



定刻になり、SCIX 理事・美齊津氏の挨拶により第3部開幕。司会を務めていただく、ラグビージャーナリスト・村上晃一氏とゲスト3名を拍手で迎え入れます。ゲストは、第2部で解説を務めてくださった平尾剛氏と白井健三氏のおふたりに加え、神戸市市民参画推進局スポーツ振興部から長村博氏にお越しいただきました。長村氏は、神戸市市民参画推進局スポーツ振興部担当課長と

して、2019 ラグビーワールドカップ神戸大会開催に尽力した中心人物。ラグビージャーナリスト、元日本代表、レフェリー、神戸市の企画運営担当者...と、四者それぞれの立場から、この日のスティーラーズホームゲーム、そして感動に沸いた2019 ラグビーワールドカップについて、熱く語り合ってくださいます。

まずは、この日の試合の感想から。「スクラムで揉めてたな〜という印象。両チームとも個人技が光った。なかでもダン・カーターが凄かった。ニュージーランドの国民が今日のプレーを見たら、まだそんなに動けるんや!?ってビックリすると思う」と村上氏。会場からドッと笑いが起こります。一方、長村氏は「試合内容もさることながら、まず来場者数に感動した。2万6000人超えはワールドカップ並」とコメント。平尾氏は、スティーラーズの課題としてスクラムをあげつつ、「ダン・カーターのステップが凄い」と村上氏同様、世界のスタープレーヤーの凄技を賞賛。白井氏は、村上氏のコメントにもあったスクラムのレフェリングについて言及。同じレフェリーと

いう立場から、この日のレフリーを務めた戸田氏の心境を推察する白井氏のコメントに、参加者もレフェリングの難しさを感じたことでしょう。

2019 ラグビーワールドカップ日本大会が閉幕してから、およそ3か月。あの盛り上がりも落ち着いたかと懸念されましたが、この日の入場者数を見てもラグビー人気に陰りは見えません。「もはや『にわかファン』が『にわか』では無くなったのでは？」との美齊津氏の問いに、「ラグビーっておもしろい！ってことに気付いた人が多いのかも？」と平尾氏。スポーツ自体にはむしろ興味の無かった人たちが、ノーサイド精神に代表されるラグビー特有の文化に共感したからでは？と持論を展開。村上氏もこう続けます。「感動に対する感謝、それはずっと続く。神戸（製鋼）のV7に感動した人は今でも神戸（製鋼）が好き。（新日鐵）釜石もそう」。参加者のみならず、登壇のゲスト陣、そして美齊津氏も大きくうなずき、納得と同時に感動の様子。以前は「（ラグビーの）チケット余ってないですか？とってもらえませんか？」と言っていた「にわかファン」が、自分で買って観に行くようになったとゲスト陣。感動から感謝が生まれ、「にわかファン」が今や「本当のファン」になったのかもしれない。



そんな大きな感動を生んだ2019 ラグビーワールドカップ日本大会。続いては、ここ神戸で開催された神戸大会について。長村氏がプロジェクターの映像を使いながら振り返ります。

日本ラグビー協会名誉会長・森喜朗氏に「日本一きれいなファンゾーン」と称された神戸メリケンパークのファンゾーン。神戸の海、そして

マリントワー望と抜群のロケーションに開設された、ファンゾーンのオープニングセレモニーには SCIX もご招待いただき、故・平尾誠二氏のご子息・昴大氏とともに氏家代表理事がテープカットさせていただきました。

神戸のファンゾーンには、SCIX 理事長である故・平尾誠二氏の軌跡を辿る「平尾誠二フィールド」も設置。神戸製鋼V7の立役者であり、ラグビーを愛し、神戸を愛したミスターラグビー・平尾誠二氏。ラグビーワールドカップ日本招致に大いに貢献した人物ということで、メモリアルスペースが設けられ、多くの人が訪れました。「平尾誠二フィールド」は神戸のファンゾーンとと

もに、10月の神戸大会終了後クローズしましたが、常設で展示できるように調整中だそう。これは朗報です。展示場所やオープン日などは決まり次第アナウンスすると長村氏。楽しみに待ちましょう！

また、セキュリティの兼ね合いでオープンにはされていなかったも



の、神戸にはワールドカップ出場の 5 チームがステイし、地元の小学校での交流会なども行われたとか。なかでも、カナダチームはラグビーボールを使ってたっぷり 1 時間ほど触れ合ってくれたと、長村氏も嬉しそう。

さらに、神戸市の取り組みとして、日本国内のみならず世界中から神戸へ観戦にやってきた人たちが、観戦後も楽しめるよう、日英 2 ヶ国語表記のサイト「トライ神戸」で情報発信。神戸を訪れた人たちが「神戸大会よかった!」と思ってもらえるようサポートしました。村上氏曰く「ラグビーワールドカップの経済効果は莫大。ビール一つとっても消費量がハンパない」。神戸市発表の記録によると、神戸で行われた 4 試合の試合来場者数は 1 試合 2 万 6000 人~2 万 8000 人。8 日間のファンゾーン来場者数は 8 万 8000 人。残念ながら予算の都合で、ワールドカップ開幕までファンゾーンをオープンすることができなかったそうですが、それでもこの来場者数は大成功といえるでしょう（神戸市の活動、記録については神戸市の web サイトをご参照ください。

<https://kobe-sportsweb.com/2019koberugby/>）。



その後、村上氏のビールに関するコメントを受けて、平尾氏が静岡会場へ観戦に向かう電車内でのエピソードを披露しました。「JAPAN のジャージを着た自分たちに、乗り合わせたアイルランドの人たちが『ビール飲むか?』と勧めてきた。とってもフレンドリー。阪

神ファンと巨人ファンでは考えられないシーン（笑）。これに会場も爆笑。

「いい話つながりで、いい話していいですか?」と、スコットランド戦で堀江選手が危険タックルにより流血した際、当該選手がすぐさま「大丈夫か?」と堀江選手をケアし試合を止めた場面を振り返ります。ラグビー文化の象徴的シーンともいえる、この「いい話」をどこかに挿入したくて仕方なかったという様子の村上氏。このラグビーならではの「他者へのリスペクト」の精神、文化について、「何でなんですか?」という質問をよくされるだけでなく、講演依頼も多いという村上氏とゲスト陣。「ラグビーをきっかけにスポーツ全体が健全な方向に舵をとれると嬉しい」と平尾氏。

このようにラグビー特有の文化にも関心が高まっている昨今ですが、では、その一方で、肝心のトップリーグの選手たちに変化はあるのか? 村上氏はこう言います。「日本代表の活躍により、トップリーグでも海外選手たちが日本のラグビーをリスペクトしてくれるようになった。本気でやるようになった。今日のレタリックのプレーを観てもそう」。

さらに、日本代表が躍進することで外国のトップ選手が日本にドンドンやってくる、その効果について平尾氏は「世界一のダン・カーター止めたら、オレが世界一！ってなる（笑）。それが自信になる。（トップレベルの選手と）同じ空気を吸い、一緒に練習することでレベルが上がる」。ここで村上氏がダン・カーター選手に関する豆知識を紹介。日々の課題などを書いたラグビーノートをつけるほど真面目で練習熱心であること。そしてグラウンドでリヤカーを引いていた SCIX 事務局の武藤氏のところに駆けつけてサポートするほど優しい人柄の持ち主。ラグビー界のスーパースターは、プレーだけでなく人格もスーパーというわけです。

その後、話題はレガシー、さらにプロ化の現状へと移行していきました。プロ化については1月28日に報道される予定という村上氏の言葉の通り、日本ラグビー協会の会見が行われましたのでご存知の方も多いことでしょう。ホームスタジアムの確保など、新リーグ参入要件が発表され、選手はプロ契約に限定せず、チームも企業から独立しての法人化を条件としない旨などが明らかになりました。プロ化については、この先も要注目といったところでしょうか。

ラグビー発展、スポーツ文化発展のためにも、プロ化含め環境整備は必至。平尾氏のこのコメントが実に印象的でした。「近所の公園で、ラグビーボールで遊んでいる子どもたちを見て感動した」。これまで開催した SCIX 講座やセミナーでも、平尾氏だけでなく、日本ラグビー協会・岩渕氏などが口にした、ラグビー関係者全員が思い描いた未来。それが現実となった今こそ、子どもたちがやりたいと思ったスポーツができる環境を整備することが大切。白井氏曰く「レフェリーのスキル、レフェリー感がその国のラグビーを強くする」。プロ化に向けたレフェリー育成、そして ONE TEAM を作れる指導感をもった指導者の育成も急務となることでしょう。



熱い想いが溢れたアフターマッチトークショーも終了予定時刻が迫り、最後は参加者からの質問タイム。「女性ファンが増えたように思うが、今後、にわかファンや、女性ファンに向けたキャンペーンの予定は？」「ラグビーにおけるアドバンテージの心とは？」など多岐にわたる質問が飛び、登壇者が真摯に答えてくださいました。登壇者を大きな拍手と

ともに送り出し、第3部も閉幕。終了後は急遽異例のサイン会を実施。SCIX 事務局が用意した色紙に、村上氏と平尾氏のサインをしていただきました。直筆サインに喜ぶ参加者たち。この日の良き記念となることでしょう。ご参加くださった皆さま、ありがとうございました。「4年前の轍は踏まない。日本代表の努力を無駄にしない。この好機を逃さない」という想いで、SCIX も活動을 続けて参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





以上